

2. 学習・生活空間の室の維持・向上

「ホームベースやラウンジで居場所を確保。学校全体をコミュニケーションの場に



4 教科教室(奥)と隣接するホームベース。教科教室兼ホームルームとくつろぎの空間が一体化している。



5 学校の中心に位置する図書館。吹抜け・ガラス張りの空間で、明るく解放感に溢れている。



6 最上級生ゾーンのラウンジ。ゆったりとくつろげる家具を配置。

生徒の視点

- 図書館やカフェテリア、トイレなどにコミュニケーションのスペースがあり、他学年との交流もしやすいです。お気に入りの場所は図書館と教科センターです。色々な資料があって有効に利用しています。
- 自主学习で活用するのはホームベースと教科教室、図書館、カフェテリアが多いです。学習の悩みや不安を相談できる場所としては、校務センターとカウンセリングルームを利用しています。(写真2、4、6、図5)

教職員の視点

積極的な行動を促す仕組み

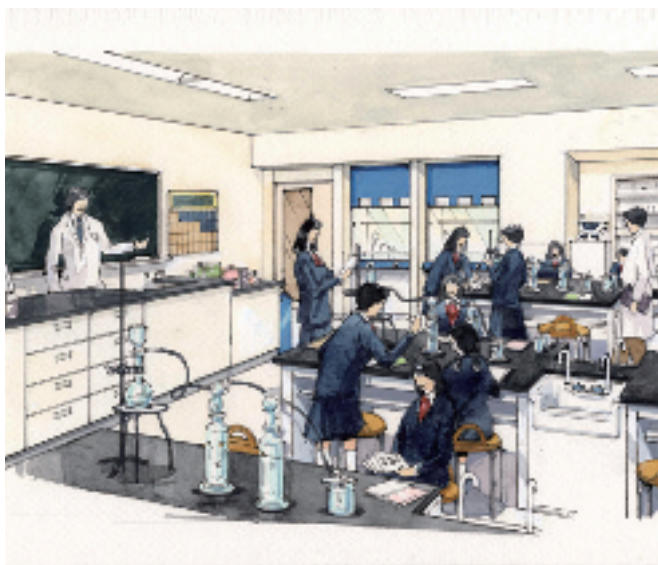
中学1年から高校3年生までの全員が時限ごとに移動するのですが、生徒には自分で授業を受けに行く積極的な意識が芽生えています。電子掲示板がスケジュール管理に一役買っています。教科センターや図書館は知的好奇心に溢れた生徒たちの姿が途絶えることはありません。(写真3、図5)

教科センターが学校生活の拠点

生活指導や教科指導は教科センターが中心となっています。生徒も質問やコミュニケーション目的で集まってくるようになりました。中庭とトップライトを利用した自然の採光により、校舎とともに生徒の表情が明るくなりました。居心地が良かったためか、生徒たちがなかなか帰宅しません。(写真3)

3.理数教育の充実

「教科センターの展示と地域性を活かした屋上庭園で楽しみながら学ぶ工夫を



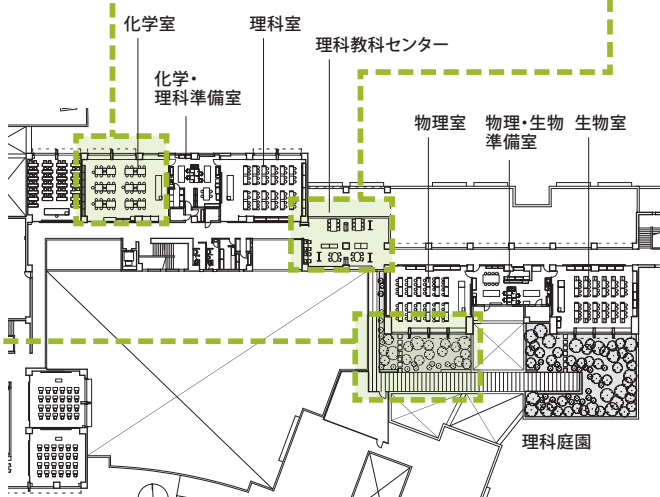
7 さまざまな実験器具を揃え、ドラフトチャンバーで安全性にも十分配慮した化学室。



8 理科の教科センター。標本の展示やクイズ形式のコーナーで楽しみながら学習できる。



9 屋上の「理科庭園」。地域の植生を教室から観察できるようにしている。



10 「理科ゾーン」周りの平面図。

楽しみながら学べる工夫

本校は理数科教育に力を入れており、実験・観察を大切に、理論的な思考力と科学的知識を身に付け、自然と人間の深い関わりを理解する教育を行っています。特に教科センターが充実しています。標本の展示のほか科学体験コーナーや鳥の羽、樹木の種類あてクイズなどがあり、楽しみながら理科を学ぶことができます。

本校独自の教科として、多摩丘陵の地層

や植物、水生昆虫、川の水質を調べる「タマロジー」があります。地域の自然に対する理解と関心を深め、本校でしかできない自然との出会いを大切にしてほしいと考えています。フィールドワークに加え、校舎でも実習が行えるよう4階屋外スペースに「理科庭園」を設け、地域の植生を再現しています。四季それぞれに様々な花が咲き、野鳥も遊びに来ます。春には桜が咲き、秋には虫の音を楽しむことができます。その様子は物理室や生物室の南側窓から観察できます。

化学室では各種の実験器具はもちろんのこと、化学実験用に排気機能がついたドラフトチャンバーを設置し、実験を行いやすく、安全性にも十分配慮した環境を整えています。(写真8、9、図7、10)